

議 事 録

会議の名称	令和5年度第1回茨木市立文化財資料館運営審議会
開催日時	令和5年5月22日(月) (午前・ <u>午後</u>) 6時00分 開会 (午前・ <u>午後</u>) 7時30分 閉会
開催場所	文化財資料館2階研修室 オンライン会議ツール ZOOM
出席者	委員長：若林 邦彦（同志社大学歴史資料館教授） 副委員長：辻尾 榮市（地域歴史民俗考古研究所所長） 委員：瀧端 真理子（追手門学院大学心理学部教授） 岡市 正規（茨木神社宮司） 難波 洋三（奈良文化財研究所客員研究員）（ZOOM） 吉村 健（大阪府立茨木高等学校教諭） 松岡 久美子（近畿大学文芸学部准教授）（ZOOM） 石井 美香（茨木市立玉櫛小学校校長） 松村 薫（茨木市教育研究会小学校社会科部副部長） (順不同・敬称略) 【計9人】
欠席者	委員：足立 久美子（文化のみち代表） (敬称略)
事務局職員	岡田 祐一 教育長、小田 佐衣子 教育総務部長、 木下 典子 歴史文化財課長、 前田 聡志 参事兼調査管理係長、 黒須 靖之 保護啓発係長兼文化財資料館長、清水邦彦 主査、 高橋 伸拓 主査、桑野 梓 学芸員 【計8人】
開催形態	<u>公開</u> / 非公開
議題（案件）	[1] 委員長・副委員長の選出について [2] 令和4年度文化財資料館等事業報告について [3] 令和5年度文化財資料館等事業計画について
配布資料	令和5年度 第1回 茨木市立文化財資料館運営審議会 資料

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
事務局	【開会】
教育長	【開会挨拶】
事務局	【会議の成立】 全委員 10 人中 9 人出席につき、茨木市立文化財資料館運営審議会規則第 4 条第 3 項の規定により、本会議は成立する旨を説明。
事務局	【委員長及び副委員長の再選】 茨木市立文化財資料館運営審議会規則第 3 条第 2 項ただし書により再選について確認。 (異議なしの声) —他委員の賛同を得て、若林委員長、辻尾副委員長の再選を決定—
	【議事の進行の交代】 議事の進行を事務局から若林委員長に交代
若林委員長	【審議の公開について】 審議会及び会議録の公開・非公開について諮りたいと思います。公開についての説明を事務局からお願いします。
事務局	「茨木市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、原則公開の旨を説明。資料の閲覧、持ち帰りも審議会の判断で可能であること、会議録についても公表に努めている旨を説明。
若林委員長	審議会については原則に則り公開とし、非公開とすべき案件が発生したときは皆様にお諮りし、非公開を決定します。会議録についても公開とし、資料についても傍聴者への閲覧及び持ち帰りを許したいと思いますが、ご異議ございませんか。 (異議なしの声)
若林委員長	本審議会は公開とし、資料の閲覧及び持ち帰りも許可することといたし

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>ます。傍聴人がいらっしゃるか確認してください。</p> <p>いらっしゃいません。</p> <p>《案件1 令和4年度文化財資料館等事業報告について》</p>
若林委員長	<p>では次第に従い、報告事項の「令和4年度文化財資料館等事業報告について」、事務局から報告、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>令和4年度文化財資料館等事業報告資料をもとに説明。</p>
若林委員長	<p>ただいまの報告のなかで、ご意見・ご質問等をよろしくお願ひいたします。</p>
若林委員長	<p>東奈良遺跡銅鐸鑄型発見 50 周年プレ事業シンポジウムが大変レベルが高く、白熱していて、参加者も多くて良かったと思う。難波先生どうもありがとうございました。これからもこのような大きなイベントができればいいと思う。</p>
石井委員	<p>昨年度、学校教育の「昔の暮らし学習」を再開してもらったのはよかった。コロナで子供たちにこういう機会がなくなっていたので、事業報告でも多くの学校が文化財資料館を利用し、学んだと報告されているので、これからも続けて行ってほしい。特にオンラインをうまく使えば、全32校参加できるかと思うのでお願ひしたい。</p>
吉村委員	<p>茨木高等学校も3年ぶりに団体見学を再開してもらってよかった。実物を目の前にし、学芸員の話聞くことは、普段の学びの機会と違うので、それだけでも新鮮だ。とりわけ地元の歴史について身近に感じる点でもよい。今後も継続していただければと思う。</p>
松岡委員	<p>昨年度、近畿大学文芸学部の3、4回生の授業で連携をした。学芸員にゲストスピーカーとして授業に参加してもらい、現地見学、地域の歴史の紹介をしてもらった上で、文化財調査とそのとりまとめなど、一連の流れを大学生に経験してもらった。貴重な機会だった。学内でも好評だったので引き続きプロジェクトを継続してもらえたらと思う。お礼とご報告を申し上げます。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
若林委員長	私も博物館に勤めているのでわかるが、社会活動が本格化してきた。一度落ちているので、元に戻すのは大変だ。事業が増えたので人が足りないとか、そういう問題は出てきているか。
事務局	コロナ禍では、外に向けての活動が減った分、館内の資料整理を重点的に実施するなどし、郷土史料室も開室した。新たな事業を実施するときにはどうしても試行錯誤することになるので、手間や時間がかかってしまうなどの問題はあり、課題であると考えている。
若林委員長	事業が多いのはすばらしいが、それに見合った体制も必要なのではないかと感じた。
難波委員	この場で学芸から仕事が過重だという話は出にくいと思う。繰り返し言っているが、事業を増やす方向には話が進みやすいが、いったん増やした事業を減らすのは難しい。学芸にとって業務が過重にならないように考えていただければと思う。学校の教諭も同じ状況かと思う。必要なものは新しくやっていけばよいが、利用度の低いものについては整理をしていくなどの活動を展開していただければと思う。
若林委員長	できることをやりながら、よりよい方向に進めていただければと思う。
《 案 件 2 令 和 5 年 度 文 化 財 資 料 館 等 事 業 計 画 に つ い て 》	
若林委員長	引きつづきまして、報告事項の「令和4年度文化財資料館等事業計画について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	令和5年度文化財資料館事業計画資料をもとに説明。
若林委員長	ありがとうございます。ただいまの報告のなかで、ご意見・ご質問等をお願いします。
瀧端委員	(4) 調査・研究事業について。館報刊行の予算は昨年度より金額が上がっている。また、館報の刊行以外に予算が記されていないが、他の調査研究事業には予算がないのか。
事務局	館報は、印刷製本費として単独で予算計上しているため掲載しているが、

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
瀧端委員	<p>他の項目に予算がないというわけではなく、出張費や研修費などがある。調査研究については、適宜必要に応じて経費を使っていく、というかたちになる。</p> <p>学芸員が講座をしたり展示したりするためにも調査研究をきちんとするというベースがあって、市民に還元されるものだと思う。またモチベーションの維持にもつながると思うので、予算をしっかりとつけていただきたい。</p>
難波委員	<p>(3)の資料収集・管理事業のところ、「収蔵庫の容量を鑑みつつ、系統だてたコレクションとなるよう、取捨選択を行う」とあるが、具体的には何か基準があるのか。具体的に説明がほしい。</p>
事務局	<p>現在、館蔵品の台帳作りを進めており、整理マニュアルを作成した。その際、収集についても基準を設け、基本的には茨木市にまつわる資料、茨木市に伝来した資料について収集していくとした。既に収蔵している資料については、基本的には寄贈をお断りするということかたちで整理をしている。</p>
難波委員	<p>例えば文字資料、江戸時代や近代のものについて、材質的に紙などの性質のものについては、全部収蔵していくが、民俗資料や歴史資料などで重複するようなものについては、ある程度重複しないようにしていくということか。</p>
事務局	<p>収蔵庫のスペースの問題で取捨選択をしている。</p>
難波委員	<p>どう選ぶかというのは今後考えていただきたい。</p>
松岡委員	<p>(4)調査・研究事業に関して、中長期的な計画を立てているか。見通しがあるようならば教えてほしい。例えば何年計画で調査を行い、調査を踏まえた企画展を何年度に実施するというようなことがあるか。</p>
事務局	<p>資料調査・研究については記載のとおりだが、調査を進めていく中で成果が上がればこれを展示に結び付けるという形になっている。例えば何年度まで調査してそれを展示するという段階には至っておらず、見えてきた段階で展示の計画に乗っていくという形になっている。</p>
松岡委員	<p>先ほどの予算との関係があつてのことだが、目標がはっきりしていて、</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
若林委員長	<p>それまでにやらなければならない、これだけの資料を整理しなければならない、となると、当然作業量が明確になって、必要な人員とか予算も明確になるのではないか。そうなるもしっかりと予算立てをして、これだけ必要になる、という形で調査研究を動かせるのではないか。もちろん、やっていくうちに展示をしよう、ということはあると思うが、調査研究の計画を立てて、予算を組んでいくのも大事なのではと思う。</p> <p>その辺りの整理も、私も個人的にあった方がよいと思うので、検討していただければと思う。</p>
難波委員	<p>国立博物館、京都国立博物館などは、社寺調査を継続的にやっている。悉皆調査をし、リスト化していく。それを展覧会にも結び付けている。何十年かするとその地域の全体像が見えてくる。寺社の意識と学芸員の意識の違うところもあるので思わぬものも出てきて、今まで世に出なかったものも出てくる。中長期的な計画ということでこのようなアイデアも紹介しておきたい。</p>
岡市委員	<p>長年委員を務めてきたが、最初のころ、学芸員が1人の時代からして、今はずいぶんと変わった。学芸員はボトムアップしていただき、おおいに文化財資料館が成果を上げ、活躍してもらえるようになってほしい。ぜひ40周年の時には、生まれ変わった資料館を見たいと思う。</p>
若林委員長	<p>免山氏の資料整理や、奥野家文書の解読整理などは、核となるものが見えていると感じる。難波委員からも指摘があったが、社寺の調査というのは、たぶん建造物や美術工芸品につながるのだと思う。これは市としての文化財の掌握の事業につながっている。これはミュージアムとしての仕事の部分と、文化財を掌握するための事業が重なっているが、別の部分もある。茨木市の文化財事業のなかで、このような美術工芸品調査は、文化財保護のセクションの仕事としてあるのか、それとも文化財資料館としての仕事としてあるのか、位置づけはどうなっているのか。</p>
事務局	<p>美術工芸品調査で言えば、新修茨木市史編さんの中で、美術工芸編の執筆というかたちで調査をしていった。寺社等建造物調査については、平成26年から文化財保護審議会の委員の先生にお世話になって実施し、2冊の調査報告を刊行した。</p> <p>これについては、市内文化財の所在等を含めて現状把握を行うことが将来的に有益であると考え、美術工芸の学芸員が担当した。文化財の指定等</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
若林委員長	<p>に関わる案件については調査管理係が実施するが、その前段階の調査については文化財資料館の学芸員が実施している。</p> <p>茨木市としては分けるということではなく、文化財資料館がそういった役割を果たしつつ、行っているという理解でよいか。となると、事業報告・計画等にみえない仕事、ミュージアムとしての仕事以外の側面があるというのであれば、追加で報告に記載してもらっても意味があるのではないか。茨木市の文化財の事業として、資料館としてこういう形で関わっている、ということはあってもいいのではないか。資料館がどのような役割を果たしているのか、というのは大事なポイントだと思う。それでどういう予算が付いていくのか、という話になっていくのでは。むしろ資料館がどのように寄与しているのか、という話になってくるのではと思う。</p>
瀧端委員	<p>去年、ここで話をさせていただいたが、今年の4月1日に博物館法が改正されたが、茨木市として市内の公共施設のことについて色々と検討がされていると思うが、修繕するということであれば、博物館法の改正を切り口として、博物館としてレベルアップしていくということは考えているか。</p>
事務局	<p>文化財資料館の現状について、今後登録博物館や公開承認施設等になれるのかどうかについて、大阪府の担当者にも打診しているところだ。館として何が不足しているのかについて相談している。</p>
瀧端委員	<p>大阪府下の他の市町村の博物館等について情報収集は行っているか。</p>
事務局	<p>近隣では、それぞれ事情が異なっており、当館と同じような問題を抱えている館が少ない。今後、もう少し幅を広げてリサーチする必要があると思っている。</p>
吉村委員	<p>ここで発言することかどうか逡巡することではあるが、昨年度、耳原古墳が見学できない状況が続いている、海北塚古墳など草茫々の場所があるなど指摘した。昨年度、茨木高校では課題研究を「北摂の考古学に親しむ」として、生徒14名ほどで授業の一環として毎週半日使って実施し、將軍山古墳を見学に行った。その節は館長に世話になった。その際、気になったのだが、紫金山古墳など新たにフェンスが設置されていて入りにくい、道案内が少ないなど見学しにくい状況になっている。所有者が府なので府の対応すべき案件かと思うが、茨木市で何か考えはあるか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>史跡を担当している調査管理係がお答えする。紫金山古墳は大阪府の所有だが、入口の敷地は病院のものになっている。コロナ禍以降は不特定多数の人を病院の敷地内に入れることについて制限をしている。そのため西側の霊園側からしか入れない状況である。入りにくいとの問い合わせは市民からも来ているため、大阪府教委には改善について申し出をしている。</p>
若林委員長	<p>ほかにご意見、ご質問はございませんか。</p> <p>色々質問、意見が出たと思う。大変なのは重々承知の上ではあるが、できるだけ何らかのかたちで答えをいただき、進めていただければと思う。基本的には今年度の事業計画は事務局提案のとおり進めていただき、次年度の審議会で報告を受け、審議するというところでよろしいか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
若林委員長	<p>以上で、本日の案件はすべて終了しました。いろいろなご意見ありがとうございました。</p> <p>それでは、これをもちまして、令和5年度第1回茨木市立文化財資料館運営審議会を閉会いたします。</p> <p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>